

ゆうこう便り

発行:北口雄幸事務所
士別市東7条9丁目
Tel0165-22-3100
fax0165-23-4356

平成23年第3回定例会一般質問で

観光とエネルギーを質問

北電の「やらせ」で広がる不信

今定例会の議論の中心は、東京電力福島原発の事故を契機とする、原発、エネルギーをめぐる課題でした。原発については、北電をはじめとする電力事業者での、シンポジウム等での世論誘導的な「やらせ」行為が相次ぎ発覚。さらに国が「やらせ」行為を主導した

事実も明らかになり、原発原子力施策への不信、不安はとめどなく広がっています。

究明しない知事の姿勢に不満

これに対し高橋知事は、事故や「やらせ」行為への遺憾は表明するものの、「やらせ」行為への対応については、北電が設置した「第三者委員会」の調査を待つとの主体性に欠ける答弁に終始。さらに、原発の今後の稼働等の議論にとって重要な、電力需給等の実態の把



一般質問において、北海道観光の振興と再生可能エネルギーの普及・拡大について質問(9月27日)

9月28日付 毎日新聞に掲載

「つかみどころのないウナギ」
原発問題 北口氏が皮肉る
依存か脱却か、原発を巡る道議会一般質問で27日、あいまいな答弁を繰り返す高橋は、み知事に対し、野党派の民主党・道民連合の北口雄幸氏(上川管内)が「つかみどころのないウナギ」と皮肉る一幕があった。高橋知事は16日の同会派の代表質問に「再生可能エネルギーが中長期的観点から重要なエネルギー源の一つ」と答弁した。しかし、高橋知事は全くと同答弁を繰り返した。北口氏は野田佳彦首相の「ドジョウ政治」にならざることを目指す。北口氏は野田佳彦首相の「ドジョウ政治」にならざることを目指す。北口氏は野田佳彦首相の「ドジョウ政治」にならざることを目指す。

する社会を維持するの「か」と再質問した。それでも答弁は変わらず、「原発を過渡的にエネルギーと位置づける省エネ・新エネ促進条例を守る気があるのか」と3回目の質問。高橋知事は「条例の趣旨を踏まえて推進する」と述べるにとどめ、原発への態度をあいまいにした姿勢を責めた。【片平知宏】

握についても、北電まかせの域を出ませんでした。

うするのは、明らかにしませんでした。

また、道は平成12年に、脱原発を視野に入れた、「省エネ・新エネ促進条例」を制定しましたが、施策の展開は極めて遅れていました。エネルギー施策については、道内の再生可能エネルギー

10月上旬とされていた、北電「第三者委員会」の調査結果は、定例会会期末まで明らかにされなかったことを含め、原発施策、エネルギー施策の論議は、今後

道政報告「北口ゆうこう道議と語る新春の集い」

道政報告「北口道議と語る新春の集い」を下記のとおり計画いたしました。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

記

とき：2012年1月14日(土) 17時30分
ところ：士別グランドホテル
会費：2,500円
【会券のお求め先】
北口事務所(東7条9丁目)
電話 0165-22-3100
FAX0165-23-4356

第二回定例道議会報告(6月14日、7月8日)
 一般質問における質問と答弁内容を抜粋

新たな観光地づくりを

問 東日本大震災の風評被害を払拭し、地域再生のための観光振興をどのように図るのか。

答 国内外からの誘客に取り組み、地域の特性を生かした観光地づくりを進める。

問 新たな観光地づくりに向けた、北海道観光振興機構の役割は。

答 観光振興機構には、新たな観光資源の発掘や魅力ある旅行商品づくりなどをコーディネートする役割も担い、魅力ある観光地づくりを進める。

脱原発の社会を

問 「北海道省エネ・新工ネ促進条例」に基づき、原子力発電に依存しない社会を創っていくのか。

答 本道に賦存する再生可

エネルギーを中長期的視点に立って、主要なエネルギー源の一つとなるよう取り組みを進める。

エコアイランド構想

問 知事は、離島で再生可能エネルギーを活用したプロジェクトに取り組みたいと言ったが、どこでいつ頃までに行おうとしているのか。

答 太陽光や風力、バイオマスなど、さまざまな資源のある離島をモデルとして、今年度に検討会議の設置やモデル事業の実施を進める。

北電は固定価格買取を

問 再生可能エネルギーの固定価格買取制度ができただが、北電が買取を拒否した場合の対応は。

答 道としては、北電に制度の趣旨が生かされるよ

うに働きかける。仮に買取に応じない場合には、しっかりととした説明を求めめる。

小水力モデルを実施へ

問 地球温暖化防止や原発に依存しない社会をめざす観点で、水力発電に対する認識は。

答 水力発電は、環境に優しい安定した電力が確保され、特に、水資源の豊富な本道の地域特性を活

かせる小規模水力発電は、有力な再生可能エネルギーの一つである。採算性や法制上の制約、水利権の調整といった課題解決に取り組み、具体的なモデル事業を実施していきたい。

朝日発電所建設を

問 士別市には、岩尾内とポンテシオの二つの道営発電所があり、平成5年から岩尾内発電所の直下に新たな発電所の建設計画が進められた。この計画では、新たなダムを必要とせず、自然に対するダメージが少なく、水の有効利用を図ることができると朝日発電所の建設は、脆弱とされる道北地域の電力安定に寄与する。新規発電所の建設、とりわけ朝日発電所の建設については。

答 企業局では、民間譲渡を含めて、事

業のあり方を検討しているところであり、当面は既存事業を着実に進め、電力の安定供給に努めることとし、新たな発電所の建設は、現時点では難しい状況と認識しているが、今後の検討課題として受け止めている。

採択された決議・意見書

再生可能エネルギーの推進に関する決議 TPP交渉への参加を行わないよう求める意見書 原子力損害の賠償に関する意見書 我が国の領土に係る外交に関する意見書 北海道新幹線の建設促進を求める意見書 私学助成制度に係る財源措置の充実強化に関する意見書 受診時定額負担の導入に反対する意見書 北海道農業の発展に必要な生産基盤整備に関する意見書 北方領土問題の解決促進を求める意見書 根室海峡におけるロシア連邦トロール船に関する意見書 石川知裕衆議院議員の議員辞職を求める決議(我が会派は反対)



牧野士別市長が朝日発電所建設を要請

写真で振り返る北口道議の活動記録(7月、10月)



上川総合開発期成会からの要請(7月4日)



富良野地区消防総合訓練(7月3日)



TPP 反対で篠原農水政務官へ要請(7月22日)



全道消防操法訓練大会出場選手を激励(7月14日)



羽貝道農政部長と「の〜む」を視察(8月19日)



鹿追町バイオマスプラントを視察(7月10日)



幌加内町の新そば祭りを楽しむ(9月3日)



士別農民連盟の農政懇談会(8月29日)



きたごりんファームで稲刈り作業を体験(9月19日)

あさひ「じゃんじゃん・ジュブリー」(9月4日)



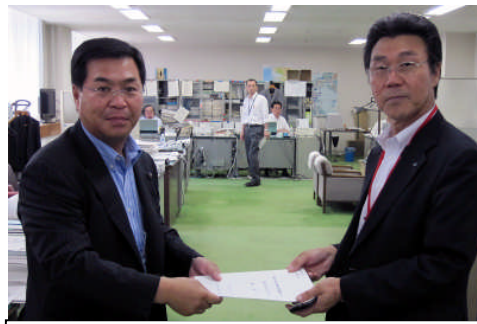
北口ゆうこう奮闘日記

http://y-kitaguchinet/

北口道議の奮闘ぶりをブログから抜粋してご紹介します。(7月～9月分)

7月1日【道農連からの要請】

北海道農民連盟白川祥二書記長から、「軽油取引税の課税免除措置などの実質的な恒久化を求める要請」をお受けした。免税軽油制度は、道路整備を目的とする道路特定財源の時代、道路を走らない機械等を使用する軽油について1リットル32円10銭が免税される制度で、平成21年度の地方税法改正



北海道農連から要請を受ける

で一般財源化され、平成24年3月をもって激減緩和措置の期限が切れることになっている。この激減緩和の措置を受けているのは、トラクターやコンバインなどの農業機械はもちろん、漁業の船舶、林業の作業機、土木や建設業、鉄道輸送など、あらゆる産業分野に影響が及んでいる。今後、農政委員会としては、国の次年度の要望に盛り込みことを検討し、議会としては意見書採択に向け協議することとしている。

7月18日【上富良野町でのゲリラ豪雨被害を調査】

佐々木隆博代議士とともに、ゲリラ豪雨で被害のあった上富良野町を訪問し、被害状況を視察調査した。上富良野町では7月14日から15日にかけて、176・5mmの集中豪雨(ゲリラ豪雨)により、河川15ヶ所、道路86ヶ所、排水路10ヶ所の合計111ヶ所で被害が発生した。さらに、冠水や表土流出などによる農作物被害は、現在



上富良野町のゲリラ豪雨被害を調査

調査中であるが多くの被害が発生した模様だ(中略) 今後、農地などの調査も行いながら、国や道がどのような支援ができるかなどを協議し、しっかりとした対策をとっていききたいと思っている。

8月18日【岩尾内発電所を視察】

北海道企業局が管理する岩尾内発電所を土別市の皆さんと一緒に視察した。岩尾内発電所は、昭和45年に総工費12億8千万円で完成し、既に40年を経過した発電所であるが、今年お年間4千4百万kwhの電力を供給し、一般家庭約1万4千100戸分の電力を発電している。しかも、岩尾内

発電所の上流に約4千600万kwhを発電するポンテシオ発電所もあり、天塩川はひとつの流れで2度の発電をしている。河川でもある。そんな発電所を今日は視察し、これからの原発に頼らないエネルギー政策を進める上でも、中小水力発電は有効な手段と考え、私としては、これからも小水力やマイクロ水力発電をしっかりと支援していきたい。



土別市の皆さんと岩尾内発電所を視察

9月18日【脱原発街宣】

昨日の名寄、土別に引き続き、今日は富良野で脱原発1千万人署名の街頭宣伝活動を行った。今日の街宣活動には、地元横山副議長、今市議も参加し



富良野市で脱原発を訴える

てくれた。私は今回の議会でも、電力及びエネルギーの地産地消とそのため体制整備や、再生可能エネルギーの普及に向けた道の役割を質問しようと思っっている。

【ひとりごと】

「知事、将来像を示さず」「多様な電源、繰り返す」これは、今議会を終えた10月8日の新聞の見出しだ。福島原発事故を受け、「脱原発」「原発依存」かといったエネルギーの将来像には、「のらりくらり」を繰り返して、私は思わず、「つかみどころのないウナギ答弁だ」と指摘した。多くの国民が原発に依存しない社会を創ると答える中、なぜ知事だけ明確に答弁しないのか、私にはまったく理解できない。(ゆうこう)